

私が担当した生化学実験のレポートのコピペ率に関する研究

2014年6月19日

総合分析実験センター

永野幸生

研究の目的

「コピペ検出ソフト「コピペルナー」を導入した」と実験中に宣言することの効果を検証した。

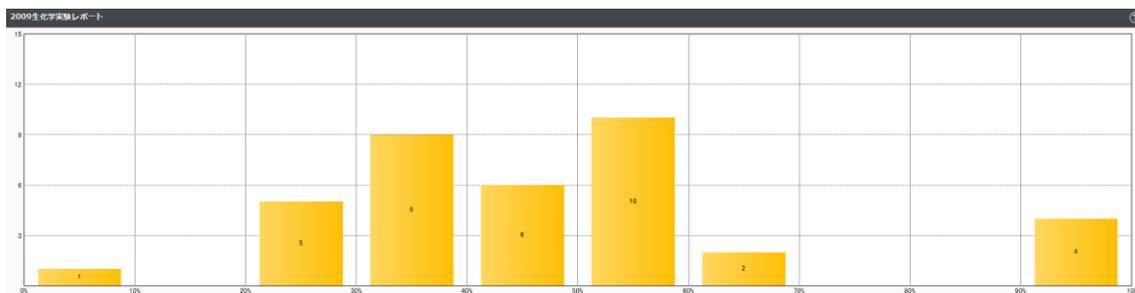
方法・材料

2014年に「コピペルナー」を導入したので、2014年6月の実験中に「コピペ検出ソフト「コピペルナー」を導入した」と説明した。2009年から2013年のレポートを遡及的にコピペルナーで解析し、本年のレポートのコピペルナーによる解析結果と比較した。

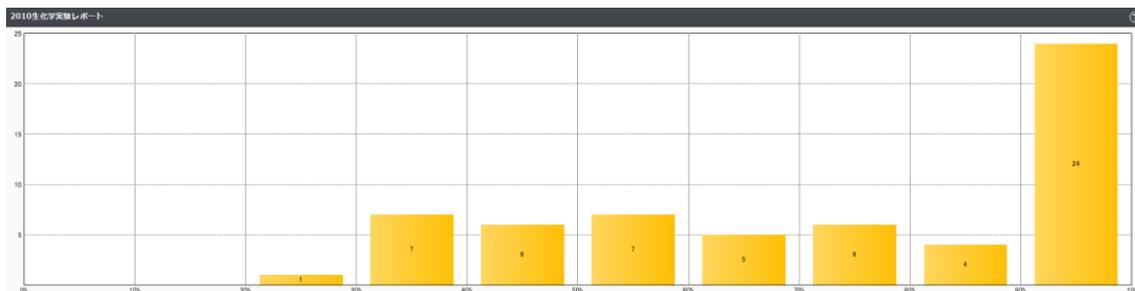
結果

図はコピペ率の頻度分布を示している。右がコピペ率が高い。図から「コピペ検出ソフト「コピペルナー」を導入した」と宣言することに明らかに効果があったことがわかる。

2009年



2010年



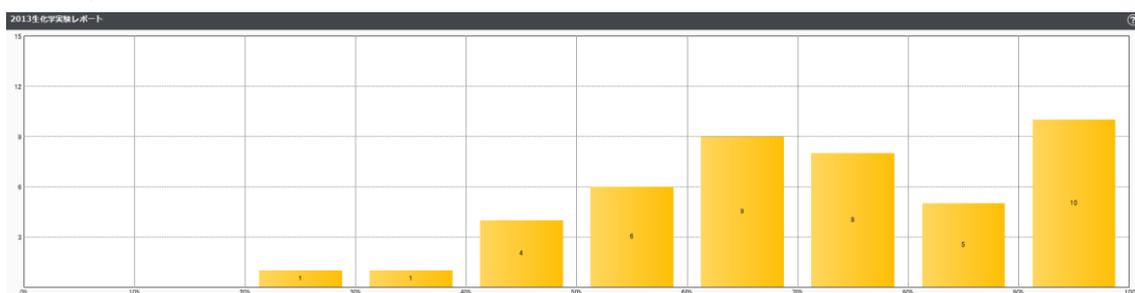
2011年



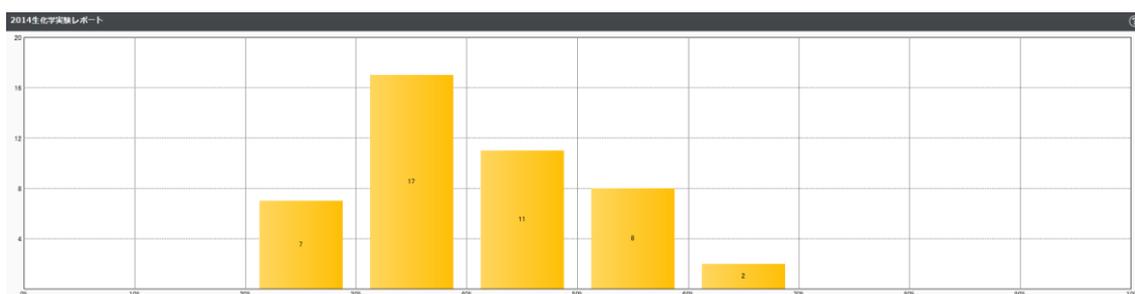
2012年（「コピーペルナー」を導入しなかったが、「コピーペルナー」のチラシをホワイトボードに貼った）



2013年



2014年（「コピーペルナーを導入した」と宣言した）



考察

学生を罰するための道具としてではなく、コピーペを未然に防ぎ、抑止する道具としてコピーペ検出ソフトが有用である。